

令和3年度 第四次福井県恐竜化石発掘調査計画

1 調査目的

平成19年度から22年度まで行われた第三次恐竜化石調査では、新たな骨化石含有層を発見し、新種の竜脚類であるフクイティタンや、全身の70パーセント以上が保存された小型獣脚類（フクイベナートル）を発見した。さらに、イグアノドン類の下あごを4つ発見し、従来知られていたフクイサウルスとは別の種類のイグアノドン類（コシサウルス）がいたことも明らかになった。

第四次恐竜化石調査は、当初、平成25年度から28年度まで4年間行う予定であったが、足跡化石調査に時間を要したため、2年延長した。平成29年度は、前年に引き続き、骨化石の密度が高いエリアの発掘調査を行い、アンキロサウルス類の歯や、新たな部位の発見などがあった。平成30年度にはこれまで指先の化石しか見つかっていなかったオルニトミモサウルス類の四肢骨を発見し、令和元年度にはまとまった状態の獣脚類の四肢骨や小型の爬虫類化石など、令和2年度には新種の可能性のあるトカゲ類の下顎の骨など、小さな脊椎動物化石が発見された。

このように、ここ数年、ボーンベッドの密度の高いエリアの発掘調査を行っており、予定より時間をかけて調査を行っている。令和3年度は、小型の脊椎動物化石や獣脚類の追加標本など、ひき続き万全な調査を行う必要がある。したがって本年度も、下流側に残っている同じ層準を慎重に発掘調査を行い、新たな部位、種類の発見を行いたい。

2 調査期間

令和3年7月26日（月）から9月4日（土）までの41日間

3 調査予定地

勝山市北谷町大字杉山94字土倉山7，8

4 調査予定面積

約100平方メートル（足跡化石面を含む）

5 調査関係者（予定）

名誉団長	東 洋一	（恐竜博物館名誉顧問・福井県立大学名誉教授）
調査顧問	西 弘嗣	（恐竜博物館特別顧問・福井県立大学教授）
調査団長	竹内 利寿	（恐竜博物館館長）
調査副団長	一島 啓人	（恐竜博物館研究・展示課課長）
	野田 芳和	（恐竜博物館指導研究員）
調査主担当	柴田 正輝	（恐竜博物館主任研究員・福井県立大学恐竜学研究所准教授）
調査副担当	関谷 透	（恐竜博物館研究員）
調査担当	研究職員9名、県立大学恐竜学研究所教員（博物館研究職員併任）3名 学芸員3名	
調査員	大学教官、理科系教員など	
調査補助員	地質学または古生物学を専攻している大学院生	
調査協力	勝山市教育委員会および勝山市小中学校理科研究会	

その他

本年度の調査は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国の大学生や大学院生の調査補助員の参加は実施しないこととします。